

第53回 全国植樹祭

「感じていますか 森があるしあわせ」をテーマに、第53回全国植樹祭が6月2日、山形県金山町有屋「遊学の森」で天皇、皇后両陛下をお迎えし、全国からもり（森林）の応援団12,000名が参加して開かれた。

オリエンティアとして又大会運営者として、日頃は森を利用するばかりですが、森林に感謝の念と森林の果たす多様性を認識するため、天皇陛下のお言葉を掲載して森をおもいう心から森をつくる行動の涵養につながる事を願いお知らせします。 (武石 雄市)

写真、 天皇陛下

写真 皇后陛下

緑の少年団の介添えで苗木をお手植えする天皇陛下

少女と楽しげに植樹される皇后陛下

天皇陛下のお言葉

第53回全国植樹祭に臨み、ここ金山町「遊学の森」において、全国から集まった参加者と共に植樹を行うことを誠に喜ばしく思います。

山形県では昭和35年に

第11回植樹行事並びに国土緑化大会がも催されました。このときのテーマは「積雪寒冷地帯、林種転換拡大造林」であり、植樹されたシラハタマツは、関係者の保育の努力により厳しい気候

条件に耐えて立派な森となりました。昭和63年に山形県で行われた第12回全国育樹祭の折、このお手植え樹6本に施肥をしましたが、これが皇太子、皇太子妃として、私どもが出席した

最後の育樹祭でした。

今日、多くの先人の努力によって守り育てられてきた豊かで美しい森林は、木材資源を確保し、水資源を涵養し、生活環境を良好に保つなど、人々の生活にとってかけがえの無い役割を果たしております。特に、わが国の厳しい自然環境の中で、森林は、台風や集中豪雨のもたらす災害から人々を守るために大きく貢献してきました。

世界的にも地球環境の保全のため、森林の持つ重要

性はますます増大しております。年々減少していく世界の森林を、人類共通の資産として、共に守り育てていくことが極めて大切であり、現在、わが国の人々が、世界の各地域において森林の造成や保護に協力していることを心強く思います。

国内における今後の問題は、森林をいかに活力に満ちた状態に保っていくかということにあると思います。間伐など手入れの行き届かない森林は、有用な木材の生産に支障をきたすばかり

でなく、災害防止に寄与する森林の効果をも減退させます。今日、過疎化の進む山間地においては、特に活力ある森林の育成に、多くの人々の協力が求められています。

今回の全国植樹祭を契機に、人々の森林に対する認識がさらに深められ、森林の育成に人々が協力しあう機運が一層高まることを願い、式典に寄せる言葉といたします。

写真 植樹記念

写真 復層林

21世紀にふさわしい森林文化社会の創造に願いを込めて

20世紀の後半、急速な地球温暖化防止、二酸化炭素吸収、生物多様性保全等地球環境保全のため、植樹や森林整備の重要性が叫ばれている。全国植樹祭は太平洋戦争終戦直後、荒廃した山地に木を植え緑を取り戻し、住宅建築用材の国内自給することから始った。その後、社会環境の変化でテーマは変遷してきたが、森林育成の重要性は益々増大している。

本誌で、「オリエンティアによる森林作りレポート」が木俣知大氏により数回にわたり、実践的活動が掲載されてきた。オリエンティアにも徐々にではあるが森林の国内各地共通の現況、森林育成の重要性と至難状況は認識されてきていると思います。

オリエンテーリングというスポーツは、トレインにおけるその割合は様々ですが、森が無いと成り立たないスポーツであると断言できるでしょう。

今回、幸運にも一般招待者に選ばれ、全国から招待された12,000人の方々とともに、「綺麗な森」「豊かな森」「未来の森」のために3本の記念植樹をしてみました。